

月刊ウィーン

GEKKAN-WIEN

現地オリジナル取材と編集で
ウィーンを伝える月刊情報紙
創刊26年目
創刊1989年 Nr.299



Alexandre Roslin: Erzherzogin Marie Christine, 1778
Öl auf Leinwand
(Dauerleihgabe der Österreichischen Nationalbank)
Albertina, Wien

アルベルティーナ特別展「アルベルティーナの創設
デューラーとナポレオンの間」6月29日まで

杉本純の原子力の話II ウィーンと京都 32



さる三月二四日、東京大学の主催によりシビアアクシデント研究に関する国際ワークショップが東京大学本郷の伊藤謝恩ホールで開催された。福島原子力発電所事故とその廃止措置について十分理解するためには多くの研究が必要ことから、シビアアクシデントと原子力安全に関する研究の将来の方向性について討論するのが目的である。ワークショップには、スウェーデン、イタリヤ、米、中国、韓国、日本からの招待講演者八名を含む七ヶ国から約七十名が参加した。我が国からは、産業界、研究所、大学等から、特に地元の東京大学を中心に約六十名の参加があった。

開会では主催の東京大学岡本教授からワークショップの趣旨が説明された。続く特別講義のセッションでは、筆者によるスウェーデン王立工科大学のセガール教授の紹介を皮切りに、同教授から講演があった。氏はシビアアクシデント研究では世界の第一人者である。その後、東京電力から福島原子力発電所事故の不明事項の検討



国際ワークショップ

状況、筆者による日本における福島事故後のシビアアクシデント研究の展望、冷却材喪失事故における熱流動挙動、日本原子力研究開発機構におけるシビアアクシデント研究、中国における原子力安全及びシビアアクシデント研究、韓国におけるシビアアクシデント防止・影響緩和研究、原子燃料の破損過程の数値解析についてそれぞれ発表があった。最後にミノノ工科大学の二方教授が座長を務めて、今後のシビアアクシデント研究についてパネル討論があった。フロアを含めて全体に活発な議論があり、若手参加者にとってはシビアアクシデント研究に関する貴重な情報が得られたと思う。また、筆者にとってもセガール教授を始め、この分野の第一線の研究者と再会できる良い機会となった。

さて、今月のウィーンと京都の対比では、両市の観光客向け乗車カードについて述べたい。ウィーンカードは、地下鉄、市バス、市電が四八時間または七、二時間乗り放題、価格はそれぞれ十八・九〇、二二・九〇ユーロである。また、一緒に付くクーポンにあるように、博物館、美術館、観光名所、劇場、コンサート、ショッピング、カフェ、レストラン、ホリリゲなどの入場割引など、二百以上の特典がある。ウィーンカードは市内のホテル、観光案内所、市交通局切符売り場などで購入できる。オーストリア・ドライブバズクラブと十七ヶ国のパートナークラブが二〇二二年に初めて欧州十六都市のシティーカードを比較調査した結果、ウィーンカードが第一位選ばれている。

一方、京都にも観光に便利なチケットが存在する。京都観光一日または二日乗車券は、市バス、地下鉄、京都バスに一日または連続二日間乗り放題

価格はそれぞれ二二〇〇円、二二〇〇円である。また、一緒にもらえるガイドマップにあるように、神社、仏閣、博物館、美術館、水族館、観光名所、土産物屋、料理店など五十八ヶ所で割引の特典がある。観光乗車券は、地下鉄券売機、市バス営業所、市バス地下鉄案内所、定期券発売所、京都バス営業所、特約ホテル・旅館・店舗などで購入できる。皇都としての歴史と伝統を誇る両市には、世界遺産を始め多くの観光名所があるが、人口がともに百五十万〜百七十万と中規模都市であるため、このような乗車券で比較的効率良く観光名所を回れることが共通している。

余談であるが、筆者はウィーン赴任中ウィーンカードを利用したことはなにもない。現地にいると二日や二日で回る必要がないからである。ただ、ウィーンへの出張時は地下鉄の二週間券（十五・八ユーロ）を良く利用する。両市を訪れる観光客や出張者に便利なカードを紹介できたことに感謝しつつ、ウィーンカードが使えるアルペルティナー美術館を描いたスケッチを掲載させていた。



■ 杉本純 京都大学教授
元原子力機構ウィーン事務所長 ■